

嘔吐物処理演習 手順書



群馬県感染症対策連絡協議会 ICN 分科会
教育ワーキンググループ
平成 27 年 5 月作成

吐物処理方法の演習方法

蛍光塗料と市販のおかゆを用いて疑似吐物を作り、吐物の処理を行い評価する方法です。

この演習でできること

1. 疑似吐物を用いて、正しい嘔吐物処理の方法を研修対象者に教えることができます
2. 疑似吐物を用いることで、実際の吐物処理方法を研修対象者が体験することができます。
3. 蛍光塗料・ブラックライトを使用することで、実際にどの程度吐物が飛ぶのかを確認することができます。
4. 蛍光塗料・ブラックライトを使用することで、吐物処理後の拭き残しを確認できます。
5. 数人で吐物処理をチェックすることで、処理のやり残しのチェックができます。

【準備する物品】

- ・ 使い捨てマスク
 - ・ 使い捨て手袋
 - ・ ペーパータオル、古タオル、新聞紙など
 - ・ エプロンなど（可能であれば使い捨てできるもの）
 - ・ ビニール袋（小、中、大）
 - ・ 消毒薬希釈用の容器（バケツなど）
 - ・ 汚物入れ（バケツなど、事前にビニール袋をセットしておきます）
 - ・ 消毒薬（原液）
 - ・ 計量用カップなど（事前に必要量の印をしておく）
 - ・ 市販のおかゆ
 - ・ ブルーシート
 - ・ ブラックライト＊
 - ・ 蛍光塗料＊
- （＊は必要時）

【演習準備】

初めて演習を行う場合は一度自身で行ってから演習指導をすることをお勧めします。

1. 演習を行う人数に合った会場を選定する。換気の良い場所や周囲に物が少ない場所が良いと思います。（ブラックライトを使用する場合は、暗くできる部屋が望ましい。）
2. 市販のおかゆに蛍光塗料を混ぜる。ブラックライトを当て、蛍光塗料が光って見えるかを確認して下さい。
3. 疑似吐物を落とす場所は汚れないように、ブルーシート等で保護する。おかゆが飛び可能性がある場所は片付けをする。

【演習手順】

		指導や観察のポイント（☑で確認）
1	準備	
①	数人でグループを作ってもらう。 吐物処理の作業をする人、作業する人をチェックする人を決めておく と良い。	☐ 研修の人数や会場の広さ等に合わせ、グループの人数は調整をする。
②	蛍光塗料の混ざったおかゆを90cm 程度の高さからこぼして吐物に見立てる ＜方法①＞ 蛍光塗料がどの程度飛び散ったかを考えてもらいながら処理の演習へ進む。 ＜方法②＞ 蛍光塗料がどの程度飛び散るのかをブラックライトで確認してから処理演習へ進む。	☐ 実際嘔吐する場合は、腹圧がかかっていることが多く、おかゆを落とすよりも広範囲に吐物が飛び散る可能性があることを説明する。

2	前処理	
①	周囲にいる人を離れた場所へ移動させ、窓を開けるなどして換気をする	☐ 汚染された場所を確保し、他者が侵入しないようにする。 ☐ ①～③は、可能であれば同時進行で行い、嘔吐物の処理は最少人数で行うと良い。 ☐ 嘔吐物が新聞紙などで覆われていれば、慌てることなく作業できる。 ☐ 嘔吐物は感染の危険があるため、素手で触らない。
②	手袋を着用し、嘔吐物の飛散を防ぐため、新聞紙やペーパータオルなどで覆う	
③	嘔吐した人に対する対処を行う	
3	吐物処理	
①	マスク、使い捨てのガウンまたはエプロン、手袋をする 	☐ 作業手順の確認
②	バケツに消毒液を作り、その中に新聞紙やタオルなどを浸し汚染されていない所に置いておく。(③、⑧で使用する) 消毒液の塩素濃度は、1,000ppm ※消毒液の作り置きはしないこと 	☐ 1000ppm の濃度を演習対象者が知っているか知識の確認を行う。 施設で使用している次亜塩素酸ナトリウムなどの濃度がどの程度であるか、1000ppm に薄めるためにはどのようにするかを伝える。 (参考資料1) 消毒薬の作成方法 ☐ 塩素の濃度は濃いため、吸入することで気分が悪くなることもあるので注意する。 ☐ 作業時に、作業に夢中になり、エプロン等が床について不潔になったりしていないかを確認する。 ☐ 周囲にいる作業協力者に吐物がついていたりして不潔になっていないかを確認する。特に嘔吐者の介助を行っていた人など。

③	新聞紙で嘔吐物を取り除き、次にタオルで拭く 	□作業時に、作業に夢中になり、エプロン等が床について不潔になったりしていないかを確認する。 □外側～内側にまとめるようにして拭き取り、吐物を広げるように拭いていないかを確認する。 □汚染区域に入った人が、不足物品の補充のため、汚染区域から出ていないか確認する
④	拭き取った新聞紙やタオルはビニール袋へ入れる 	□ビニール袋は、あらかじめ開いて準備しておくといよい。
⑤	全て入れ終わったら、ビニール袋の口をしっかりと縛る 	□詰め込み過ぎて、袋が破れたり、回収物が飛散することの内容に作業が行えているか、確認する。
⑥	嘔吐物入りのビニール袋を別のビニール袋へ入れる 	□吐物処理をして汚染された手袋は、外側の袋の内側のみに触れる。外側には触れないように注意する。 □手袋は正しく外されているかを確認する。

⑦	同じ袋に使用した手袋なども一緒に入れ、袋の内側に触れないようにしてから、しっかり縛る 	□吐物処理して汚染された手袋のまま、袋の外側に触れないようにする。 □汚染した手袋で周囲に触れていないかを確認する。 □詰め込み過ぎて、袋が破れたり、回収物が飛散することの内容に作業が行えているか、確認する。 □ビニール袋の口を縛る時、中の空気を勢いよく抜くとウイルスが空気中に飛散する可能性があり危険なため注意する。
⑧	再度手袋をし、嘔吐物を拭き取った場所に消毒液で湿らせたタオルなどで 10～30 分程度、しばらく覆っておく。 汚染区域にいた人は、汚染区域から出る前に靴の底や周囲の汚染された物品等（車椅子、ゴミ箱、など）を消毒液を浸み込ませてたタオルで拭く	□次亜塩素系の消毒液は、金属を腐食させるため、10 分程度とする。 □⑧～⑨はそれ以前にきちんと拭き取られていれば必ず必要な項目ではない。吐物の量が少量であれば、省略可である。 □靴や汚染された物品で、ウイルスを広げないように注意 □手袋、エプロン、マスクの順に外しているか確認
⑨	⑧のタオルを外し袋に入れ、手袋、エプロン又はガウン、最後にマスクを外してタオルと同じ袋へ入れて縛る。	
⑩	流水と石鹸で手指衛生をする。 以降、別の作業を行う場合は、その都度手袋やエプロンを着脱して手洗いを行う。	□アルコールはノロウイルスに対して効果がないまたは効果が薄いため、流水と石鹸で手指衛生をする。
⑩	水拭きをする。	□次亜塩素系の消毒液は、金属を腐食させるため、よく水拭きをする。
⑪	しっかりと手を洗い、うがいをする。ウイルスが付着していることも考えられるため、可能であれば着替えもする。	

4	評価	
①	演習が終了したら、周囲を暗くしブラックライトを当て、どの部分に拭き残しがあるかを確認する。	☐ 拭き取った周囲だけでなく、壁、ブルーシートの外側の床、処理者の白衣なども確認する。
②	蛍光塗料の付着していた場所を評価用紙に色塗りする。 チェック者は手順通りに吐物処理が出来ていたかを評価をする。 グループ内でできていた点・できなかった点などを伝え合う。	
③	複数のグループがある場合は、グループごとに発表する。	☐ 発表をすることで、グループ内では気づけなかった点を気づくこともできる。

写真出典：群馬県保健予防課資料 <https://www.pref.gunma.jp/07/p07110013.html>